



なりた なおこ 成田 奈緒子 自然環境を関係人口創出資源活用へ!大学等連携で仕組みづくりを!

部署横断的連携は

【答弁】 地域資源活用した事業を積極的に働きかける



問 都市住民や林業に興味ある学生に森林浴・里山整備の軽作業等体験する取り組みや、駅伝等トレーニング拠点に自然を活用する連携推進は。

答 環境保全の視点と関係人口創出に地域資源の活用が必要。若者・女性への魅力発信と地域活性化に寄与する効果的連携を図る。

問 地域との継続的關係から二地域居住・担い手確保・移住定住へと波及する国のふるさと住民登録制度に対する市の考えは。

答 課題解決や発展に大きく寄与する可能性がある。若者や女性の豊かな感性や経験、行動力を発揮できる仕組みづくりが重要。

歩道橋安全対策と駅東口開設に伴う通学路設定

問 旧高麗小前歩道橋は設置から52年、劣化状況は緊急修繕が必要な4判定のうちレベル3。児童の安全のため修繕等対策は。

答 学校が毎年通学路点検し、危険箇所改善の必要性を報告後、適切な手順で関係部署と対応。

問 高麗川小児童416名が通る踏切回避に自由通路の通学路設定は。

答 多角的検証と安全性・地域保護者の意見を伺い慎重に検討し適切に設定を行う。



高麗小中学校児童51名が通学路とする歩道橋



すずき たけお 鈴木 健夫 フードロスシェアリングサービスを活用した食品ロス削減について

事業者と協定を含め連携は

【答弁】 制度の研究を重ね適切な対応を判断する



不登校児童生徒の心身を配慮した学習計画について

問 心身の課題に応じた柔軟な学習計画と評価の仕組み、共有方法は。

答 心の安定を最優先とし、教職員をはじめ各学校に配置している相談員やスクールカウンセラーを交え、さらに保護者の意見や考えも聞いて、学習の支援を計画的に行っている。

成年後見制度の充実について

問 今後、どのように市民後見人の担い手を確保して、制度の活用をどう広げていく方針か。

答 複数後見やリレー方式等を採用することで、新たな担い手の精神的負担を取り除くように

周知、啓発して市民後見人の確保につなげ、制度の活用を広げること考えている。

安心して搾乳ができる環境づくりについて

問 産後の女性の社会活動を支える観点から、本市の現状認識と今後の取り組み、公共施設への搾乳可能表示、例えば搾乳シンボルマークの設置についての見解は。

答 行政が積極的に取り組むことで、社会全体への理解が深まるものと考えている。今後、県の動向や各市町村における取り組みを参照しながら、搾乳に関する理解を深めるための周知・啓発に取り組む。